

「想定外」を想定する ―東日本大震災から学ぶ 「本質安全」の重要性―

笠間市立病院 石塚恒夫

3月11日に発生した東日本大震災から半年以上が過ぎ、未曾有とか想定外という言葉で片付けられていた大津波被害や原発事故の検証が始まった。事前に想定されたハザードマップや避難場所で安心せず、危険を察知してより高台に避難した人達が助かった。逆に、堅固なはずの防潮堤を過信し避難が遅れた人達が亡くなった。原発事故でも起こらないと想定していた全電源喪失が起きた後は、もう打つ手はないような状態であったことがわかってきた。

想定はさまざまな制約のもとでされるものであり、条件が変われば想定する範囲も変わるものである。しかし、一度想定してしまうと、それ以上の危険はあるはずなのに見えなくなってしまう。著書「失敗学のすすめ」で知られる工学博士の畑村洋太郎先生によると、失敗しないようにする「制御安全」は、「失敗しても被害の小さい「本質安全」の補助輪に過ぎない。「制御安全」では想定した範囲でしか防げず、想定外の事態が

起きた時には「本質安全」であるかどうか問われる。防潮堤よりも高台避難が本質的であり、電源喪失時の原子炉冷却システムも重視すべきであった。

医療行為も想定とその検証の連続である。救急患者を例にすれば、はつきり診断がつかず家に帰してもいいか迷うことも多い。その時に重要なのは、「もし重大な疾患が隠れていた場合に取返しがつくか」である。年齢・合併症などを考慮し、血圧・脈拍・呼吸数などのバイタルサインを客観的に評価する。家に帰せないと判断した場合、入院経過観察中に重大疾患が診断できることも少なくない。帰す場合でも、どんな変化があれば再受診するのか指示が必要である。

医師の診断も得られた条件での想定に過ぎない。症状が変化すれば、当然診断も変化する。「大丈夫」と言われても、命の危険を感じたらすぐに相談して欲しい。人の体に「想定外」が起り得ることを、医師は身染みて知っているから。

笠間のがんばる企業紹介③⑤

市内で活躍する企業を支援するために結成された「笠間市がんばる企業応援連絡会」。このコーナーでは、連絡会に加入している企業の皆さんを紹介します。

株式会社日進電装

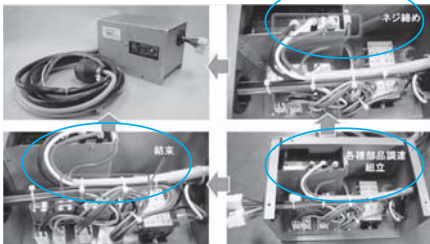
今回は神奈川県横浜市の本社を持ち、平成4年から茨城工場として笠間市片庭で操業されている株式会社日進電装を紹介いたします。須藤伸一代表取締役社長にお話を伺いました。

―茨城への進出経緯を教えてください。―

当社は笠間に進出して来年で20年になります。当時は大手得意先が温水洗浄便座の生産を始め、桜川市の岩瀬地区に進出するのにあわせて片庭に工場をつくりました。現在は社員5名パート31名で、手先を使う業務が多いため女性従業員が大半を占めています。また、家庭との両立もできるよう約9割を地元から雇用し地域貢献に努めています。

―工場で生産されているものを教えてください。―

生産の大部分を占めるのがワ



ユニット製品品質技術



教育実習風景

イヤ―ハーネスの製造になります。産業用ロボや新幹線をはじめさまざまな機器の中に入っている重要部品であるため、多種多様な製品に使われています。そのため取引先も1社に依存せず、新規開拓をしながら安定した経営を確立しております。また、国からIT技術改革の助成を受けながら新しいシステムを導入するなど生産に力を入れています。

―会社の理念は？―

地に足をつけて地域貢献しながら細くても長く続けられる企業でありたいと思います。

そして課題に直面したときは、ひとつでも工夫してやってみる勇氣を持つことを心がけています。他の会社が敬遠するようなことも、知恵をだしてやってみることが長く続くことにつながります。派手なことをしなくても、従業員の子弟の代まで続く会社になりたいです。

「株式会社日進電装」

所在地…笠間市片庭1440-2

従業員数…36人(パート含む)

※文責▽笠間市役所企業誘致推進室(内線214)